

只見がユネスコエコパークに! ユネスコ本部に推薦書が提出されました!!



▲会津若松市でエコパーク申請の書類提出について発表する
(左から)鈴木館長、目黒町長、渡部総務企画課長

文部科学省は9月4日に開催した日本ユネスコ国内委員会の分科会でユネスコが実施するエコパーク(生物圏保存地域)へ只見地域と南アルプス地域(山梨県、長野県、静岡県)の2件を新規登録としてユネスコに推薦することを決定し、日本ユネスコ国内委員会は9月30日付で「只見ユネスコパーク」の推薦書をユネスコ本部に提出しました。

順調に手続きが進めば来年の6月にスウェーデンで開催されるユネスコMAB計画国際調整理事会において正式に登録が決定され「只見ユネスコエコパーク」が誕生します。

「只見ユネスコエコパーク」について

○特徴

核心地域※1及び緩衝地域※2の山地は、奥会津森林生態系保護地域の保存地区又は保全利用地区に設定されており、豪雪が作り出す雪食地形※3の上に、ブナをはじめとする落葉広葉樹林のほか、針葉樹林、低木林及び草地等により構成されるモザイク植生が、原生的な状態で広大な面積に存在します。

移行地域※4は農山村地域で、積雪地帯の伝統的な生活文化が継承され山菜・キノコ類の採集、まき材生産など森林資源が利用されています。

また、町は世界ブナサミットの開催や「只見町ブナセンター」の設置、「自然首都・只見」を宣言し行政と住民の協働によるまちづくりを行ってきました。

※1 核心地域とは・・・自然環境の保護を主とする地域

※2 緩衝地域とは・・・大規模開発は規制されるものの教育や観光などに活用できる地域

※3 雪食地形とは・・・雪崩によって斜面の表土が剥ぎ取られ岩盤が露出した地形

※4 移行地域とは・・・人々が社会活動を営む地域

○面積

総面積	78,032ha	・核心地域	3,557ha (一部に檜枝岐村を含む)
		・緩衝地域	51,333ha (//)
		・移行地域	23,142ha

今までも何度か広報ただみで「ユネスコエコパーク」について取り上げてきましたが、知っているようで実は良く分からない事もあると思います。

そこで、Q&A（質問&回答）方式でエコパークに関する疑問をまとめてみました。

Q. 1 そもそも「ユネスコ」って何なんだろう？

A. 1 ユネスコは、教育、科学及び文化などの活動を通じて、世界平和を実現するために作られた国連機関の一つで本部はフランスのパリにあります。

ユネスコの正式な名前は「国際連合教育科学文化機関」と言い、英語で表わすと
ユナイテッド ユナイテッド ネーションズ エデュケーション サイエンティフィック アンド
United Nations (国連) Educational, (教育の) Scientific (科学の) and
Cultural (文化の) Organization (機関) となりそれぞれの頭文字をとって“UNESCO”
カルチュラル オーガニゼーション ユネスコ
となります。

ユネスコの活動は、世界遺産の登録や保護が有名な活動ですが、教育支援活動なども行なっています。

Q. 2 「エコパーク」って何なの？ 有名な「世界遺産」とは何が違うの？

A. 2 生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的としてユネスコが開始した事業（「MAB計画」人間と生物圏計画）の一事業として推進されてきたものが「エコパーク」になります。

英語ではBiosphere Reserves (生物圏保存地域) と呼ばれ頭文字をとって「BR」
バイオスフィア リザーブス
とも言われ「エコパーク」は、日本での通称になります。

世界遺産（世界自然遺産）は「手付かずの自然」を保全する事が目的であるのに対し、エコパークは、自然保護を優先する地域、自然を生かして観光や教育の場とする地域を組み合わせ自然との共生を目指すものになっています。

Q. 3 「エコパーク」は今世界でどのくらい登録されているの？

A. 3 登録総数は、117カ国、621地域（平成25年5月現在）となっており国内では5カ所が登録されています。来年、只見地域と南アルプス地域が登録されれば国内で計7件となります。

Q. 4 難しくても良くわからない！ 「エコパーク」についてもっと知りたい！！

A. 4 10月27日（日）にシンポジウム（公開討論会）を開催しますのでぜひご参加下さい。

第2回 ユネスコエコパーク地域シンポジウム

開催日時 平成25年10月27日（日）9：30～13：00
会場 季の郷湯ら里コンベンションホール「ゆきつばき」
入場料 無料
テーマ 「ユネスコエコパークと地域振興」

日本国内のユネスコエコパーク登録地及び候補地から関係者が一同に集まる国内初となるシンポジウムになります。各地域での生物多様性の保全についての具体的な取り組みや、環境や資源の有効活用を通じた地域振興、地域社会の活性化についてなどの話を聞く事が出来るこれからの只見町にとって重要なシンポジウムです。